



特定非営利活動法人

日本シーティング・コンサルタント協会
The Japanese Society of Seating Consultants

症例報告の書き方

NPO法人 日本シーティング・コンサルタント協会
<https://seating-consultants.org>



症例報告を書くにあたっての注意事項

- 原稿を読む人の事を考えながら、わかりやすい文章を書くことを意識する。
- わかりやすい文章とは
 - 読み手にとってその人なりの理解ができる（しやすい）
 - 「1パラグラフに1トピック」の原則で書いてある
- 論理の流れを図示できる文章であること。



症例報告の意義

- 症例について調べ直すことにより、自分が行った評価や介入について振り返ることができる。
- 症例についての考察が深まり、次の症例に活かすことができる。
- 報告として公開することにより、多くの人と議論することができ、そこからさらに次への展開が生まれる可能性がある。
- 論理的な文章を書くことにより、論文執筆のノウハウが蓄積される。



書く順序について

内容はもちろん、書く順序が重要です

日本シーティング・シンポジウムにおける症例報告用抄録のフォーマット

1. 【はじめに】
2. 【症例紹介・初期評価】
3. 【倫理】
4. 【介入内容・介入結果】
5. 【考察・結語】



これをもとに症例報告を書く場合

書く順序

1. 【結語】
2. タイトル
3. 【倫理】
4. 【症例紹介・初期評価】
5. 【介入内容・介入結果】
6. タイトルの見直し
7. 【考察】と【はじめに】の Paragraph 構成
8. 【考察】 【はじめに】
9. タイトルの見直しと要旨の作成
10. キーワード

まずは結語から書く

1. 【結語】
2. タイトル
3. 【倫理】
4. 【症例紹介・初期評価】
5. 【介入内容・介入結果】
6. タイトルの見直し
7. 【考察】と【はじめに】
の параグラフ構成
8. 【考察】 【はじめに】
9. タイトルの見直しと要旨
の作成
10. キーワード

1. 【結語】

症例報告について、結論を端的に示すように1文で示す。これを示しておくこと論理のゴールが明確となり、論理の流れを図示しやすい。

2. タイトル

後で見直すことを前提に、結論からおおよそのタイトルを付けておく。**どのような症例に、どのような介入を行い、どのような結果になったかがわかる**とよい。

3. 【倫理】

- 対象者には研究内容についてあらかじめ十分に説明し、自由意思にもとづき文書により同意を得たことを明記する。
- 研究対象が未成年者または意識障害などがある場合には、その親権者等の同意を得る。
- 所属施設の必要に応じて倫理委員会の承認を得、その場合は承認番号を記載する。

症例の情報や介入は客観的事実のみを書く

1. 【結語】
2. タイトル
3. 【倫理】
4. 【症例紹介・初期評価】
5. 【介入内容・介入結果】
6. タイトルの見直し
7. 【考察】と【はじめに】
の параグラフ構成
8. 【考察】 【はじめに】
9. タイトルの見直しと要旨
の作成
10. キーワード

4. 【症例紹介・初期評価】

- 年齢、性別、身長、体重等の基本情報、既往歴、現病歴を簡潔に記載する。
- 介入の目的・目標もここに記載する。
- 評価内容は定量的評価を必須とし、必要に応じて姿勢の傾向などの定性的評価や図表を活用する。
- **客観的事実のみを記載**し、「と思われる」「の傾向がある」といった記載は避ける。

5. 【介入内容・介入結果】

- 実際に行った介入内容の事実のみを記載する。
- 初期評価から変化のあった点を定量的評価を中心に記載する。
- 必要に応じて図表を活用する。

6. タイトルの見直し

結論と客観的事実の記載からタイトルが適切であるかを見直す。

「考察」「はじめ」には要素を書き出してから 1パラグラフ1要素で書く

1. 【結語】
2. タイトル
3. 【倫理】
4. 【症例紹介・初期評価】
5. 【介入内容・介入結果】
6. タイトルの見直し
7. 【考察】と【はじめに】
のパラグラフ構成
8. 【考察】 【はじめに】
9. タイトルの見直しと要旨
の作成
10. キーワード

7. 8. 【考察】 【はじめに】

- ・【考察】は著者の考えのみを記載するものではない。
- ・まずは【考察】について、結果から考察として述べることの要素を書きだす。一般的には2～3要素になることが多い。
- ・各要素について先行研究などとの比較を行い、著者としての考えを記載する。著者の考えが前面に出過ぎると論理の飛躍となりやすいので注意が必要である。
- ・先行研究と一致していたか、一致していない場合はどのような原因が客観的に妥当かを記載する。
- ・1パラグラフに書く要素（トピック）は1つとする。
- ・【はじめに】は、先行研究などを参考に本症例報告の意義を中心に述べる。考察と同様に要素を書き出し、1パラグラフ1要素は考察と同様。

症例の情報や介入客観的事実のみを書く

1. 【結語】
2. タイトル
3. 【倫理】
4. 【症例紹介・初期評価】
5. 【介入内容・介入結果】
6. タイトルの見直し
7. 【考察】と【はじめに】
の параグラフ構成
8. 【考察】 【はじめに】
9. **タイトルの見直しと要旨
の作成**
10. **キーワード**

9. タイトルの見直しと要旨の作成

- 最後にもう一度全体を通してタイトルが適切か確認する。「**タイトルは最も短い抄録**」というイメージで、タイトルを読めば症例報告の概要がわかることが望ましい。
- 本文完成後に要旨を書くと本文と整合性が取りやすい。

10. キーワードの作成

全体を通して、キーワードを作成する。

日本シーティング・シンポジウムの 症例報告用執筆要項

【はじめに】

- 症例の背景と経緯、報告の発端と動機、目的と意義などについて記載してください。

【症例紹介・初期評価】

- 症例紹介、初期評価を記載してください。評価についてはマット評価、Hoffer座位能力分類（JSSC版）、ズレ度（JSSC版）、痛みの評価、車椅子5m駆動時間計測（JSSC版）、姿勢計測などの中で、行ったものを入れてください。介入の目的、目標もここに記載してください。

【倫理】

- 倫理委員会の承認を得た場合は承認番号を記載してください。対象者またはご家族へ研究の目的、方法および発表する旨について説明し、同意を得たことを本文中に記載してください。

【介入内容・介入結果】

- 介入内容、経過を入れてください。介入結果として初期評価から変化があった部分の評価を記載してください。

【考察・結語】

- 考察とまとめを記載してください。

当協会ホームページより

「日本シーティング・シンポジウム」の発表から 「車椅子シーティング研究」への投稿へ

まずは日本シーティング・シンポジウム
で発表し、それから症例報告を書いて
みましょう！

参考文献

對東俊介、他：若手理学療法士のための症例報告と原著の書き方.
理学療法の臨床と研究, 25,p3-10,2016.





特定非営利活動法人

日本シーティング・コンサルタント協会

The Japanese Society of Seating Consultants

当協会の許可なく複製・転載等を禁止します。

